

セカンドパーティ・オピニオン セイコーエプソン株式会社 グリーンボンドフレームワーク



評価概要

サステナリティクスは、セイコーエプソン株式会社（以下、「セイコーエプソン」あるいは「同社」）のグリーンボンドフレームワーク（以下、「本フレームワーク」）が信頼性及び環境改善効果を有し、グリーンボンド原則 2018（Green Bond Principles、以下 GBP）の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステナリティクスが、この評価に際して考慮したのは以下の要素です。



調達資金の用途 資金用途の対象となる適格カテゴリー、1) 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス、2) 汚染防止及び抑制、3) 持続可能な水資源及び廃水管理、4) 再生可能エネルギーは、GBP において認められているカテゴリーと合致しています。また、サステナリティクスは、セイコーエプソンの適格プロジェクトは、環境改善効果をもたらす、国際連合が定める持続可能な開発目標（SDGs）の目標 6、7、9 及び 12 を推進するものと考えます。



プロジェクトの評価及び選定 セイコーエプソンの資金用途の候補となるプロジェクトは、適格クライテリアに沿って、経営・財務管理部、CS 品質・環境企画部門及び CSR/CSV 推進部門が選定します。選定されたプロジェクトは、経営戦略会議にて審議され、最終決定は最高財務責任者が行います。同社の評価及び選定プロセスはマーケット・プラクティスに合致しています。



調達資金の管理 同社の経営・財務管理部 が四半期毎に社内システムを用いて充当額及び未充当資金の額を追跡管理します。未充当資金は、現金又は現金等価物にて管理されます。サステナリティクスは、同社の調達資金の管理プロセスはマーケット・プラクティスに合致していると考えます。



レポートニング セイコーエプソンは、グリーンボンドの償還までの期間、年次で同社ウェブサイトにて充当状況レポートニング及びインパクトレポートニングを行う予定です。レポートニングには、充当額及び未充当額、充当プロジェクトの概要、ファイナンス・リファイナンスの割合及び充当プロジェクトに関連する環境改善指標が開示されます。また、同社は独立した外部機関であるサステナリティクスから、コンプライアンス・レビューを年次で取得する予定です。サステナリティクスは、同社の充当状況レポートニング及びインパクトレポートニングの実施に加え、コンプライアンス・レビューの取得に対するコミットメントは、マーケット・ベスト・プラクティスに合致していると考えます。

評価日	2019 年 12 月 5 日
発行体所在地	日本（長野）

レポートセクション

はじめに.....	2
サステナリティクスのオピニオン.....	3
参考資料.....	10

本件に関するお問い合わせは、下記の Sustainable Finance Solution プロジェクト担当チームまでご連絡願います。

Wakako Mizuta (東京)
Project Manager
wakako.mizuta@sustainalytics.com
(+81) 3 4510 2343

Marie Toyama (東京)
Project Support
marie.toyama@sustainalytics.com
(+81) 3 4510 2343

日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版への適合性

サステナリティクスは、セイコーエプソングリーンボンドフレームワークが日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に適合しているとの意見を表明します。日本のグリーンボンドガイドラインは信頼性の高いグリーンボンドの発行のためのプロセスと推奨事項を示しています。サステナリティクスは、本フレームワークと日本のグリーンボンドガイドラインにて示されている「べきである」項目との適合性を評価しました。

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

はじめに

セイコーエプソンは、日本の電子機器メーカーで、プリンター、スキャナー、プロジェクター、ウォッチ、産業用ロボット、マイクロデバイス等を提供しています。同社は 1968 年に初の海外生産拠点をシンガポールに設立して以来、全世界に販売・サービス、生産・開発拠点を有しており、2018 年度は連結売上収益の 77%が海外となっています。

セイコーエプソンは、セイコーエプソングリーンボンドフレームワークを策定し、同フレームワークに基づいてグリーンボンドを発行し、調達資金を日本国内外への環境改善効果をもたらす適格グリーンプロジェクトへのファイナンス及び/又はリファイナンスに充当する予定です。本フレームワークは、以下の領域において適格クライテリアを定めています。

1. 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス（エネルギー効率を向上するプリンター・複合機及びオフィス古紙を原料とする製紙機の研究開発費用及び製造に係る設備投資）
2. 汚染防止及び抑制
3. 持続可能な水資源及び廃水管理
4. 再生可能エネルギー

セイコーエプソンは、2019 年 11 月、サステナリティクスとの間で、国際資本市場協会¹（ICMA : International Capital Market Association）が定める GBP 及び日本の環境省が定めるグリーンボンドガイドライン 2017 年版との整合性、及び本フレームワークとその環境面での貢献について、セカンドパーティ・オピニオンを提供する委託契約を締結しています。本フレームワークの概要は、参考資料 1 をご覧ください。

また、サステナリティクスは、委託契約の一環として本フレームワークにおける調達資金の管理やレポーティングの側面だけでなく、セイコーエプソンの事業プロセスや想定される調達資金の使途のサステナビリティ（持続可能性）への影響を理解するため、セイコーエプソンの経営・財務管理部のメンバーとの対話を実施しました。またサステナリティクスは、関連する公表文書及び社内文書の審査も行いました。

尚、本意見書は、当該フレームワークに対するサステナリティクスのオピニオンであり、当該フレームワークと併せてご覧ください。

¹ 国際資本市場協会（ICMA）、「グリーンボンド原則 2018」：<https://www.icmagroup.org/green-social-and-sustainability-bonds/green-bond-principles-gbp/>

サステイナリティクスのオピニオン

セクション 1: セイコーエプソングリーンボンドフレームワークへのサステイナリティクスのオピニオン

サステイナリティクスは、本フレームワークが信頼性及び環境改善効果を有し GBP の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステイナリティクスは、本フレームワークにおける以下の要素を重要な点として考慮しました。

評価概要

- 調達資金の使途
 - － グリーンボンドによる資金使途の対象となる 4 つの適格カテゴリー、1) 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス、2) 汚染防止及び抑制、3) 持続可能な水資源及び廃水管理、4) 再生可能エネルギーは、GBP において環境改善効果を有するプロジェクトカテゴリーとして認定されています。調達資金の使途の環境改善効果に係るサステイナリティクスによる評価の詳細は、セクション 3 をご参照ください。
 - － セイコーエプソンは、グリーンボンドによる調達資金を、消費電力量を低減するプリンター・複合機及び当該製品群の部品の製造に係る設備投資及び研究開発費用への充当を予定しています。同社は当該製品および部品において他社同型製品比較で 75%から 90%のエネルギー効率（オフィス向け高速ラインインクジェット複合機は他社製品比較で消費電力が約 1/8、大容量インクタンクプリンターは約 1/10 に削減。商業・産業向けの捺染プリンターは、アナログ捺染と比較し、生産工程が 1.5-2 カ月からに対して、3 日から 2 週間に短縮）をもたらすことを約束しており、サステイナリティクスは、同社が本フレームワークで定めるエネルギー効率は、明確な環境改善効果をもたらす、低炭素経済に貢献するものであると見解します。また、同社は、オフィス古紙を原料とした製紙機の研究開発および製造設備への充当を予定しており、古紙を利用することで資源の再利用および廃棄物の低減により、循環型経済の推進に貢献します。
 - － 汚染防止及び抑制のカテゴリーにおいては、セイコーエプソンは自社が実施するリサイクルシステムの運営費に調達資金を充当します。当該システムは、使用済みカートリッジ及び完成品（プリンター、プロジェクター、パソコン）を回収・再資源化し、同社製品の製造の際に再利用します。
 - － 同社は、自社製品の生産工程における汚染水の浄化及び排水の利用による水質保全に係る費用が資金使途の対象としており、当該費用は水質汚染の低減に貢献します。
 - － 再生可能エネルギーのカテゴリー下では、再生可能エネルギー由来の電力の購入費用への資金充当が予定されています。サステイナリティクスは、投資家が再生可能エネルギーへの設備投資を嗜好し、セイコーエプソンの同資金使途の改善効果が限定的であることを認識していますが、同社の事業モデル及び事業活動に伴う GHG 排出量を 2025 年度までに 2017 年度比で GHG 排出量を 19%削減する同社目標を考慮し、再生可能エネルギーの購入及び導入促進は環境改善効果を有するものとして評価します。
 - － セイコーエプソンは、グリーンボンドの調達資金を新規及び既存の支出に充当することを予定しており、リファイナンスの対象となるルックバック期間を、グリーンボンドの発行日から遡って 3 年以内に設定しています。サステイナリティクスは投資家が、一般的にルックバック期間が 2-3 年以内に設定された、新しいプロジェクトに対するリファイナンスを選択することを認識しており、同社によるルックバック期間の設定はマーケット・プラクティスに合致すると考えます。
- プロジェクトの評価及び選定
 - － セイコーエプソンの資金使途の候補となるプロジェクトは、適格クライテリアに沿って経営・財務管理部と CS 品質・環境企画部門及び CSR/CSV 推進部門が協議の上で選定し、経営戦略会議にて審議を行ったうえで、最高財務責任者が最終決定します。同社の評価及び選定プロセスはマーケット・プラクティスに合致しています。

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

- 調達資金の管理
 - 同社の経営・財務管理部が四半期毎に社内システムを用いて充当額及び未充当資金の額を追跡管理します。未充当資金は、現金又は現金等価物にて管理されます。サステナリティクスは、同社の調達資金の管理プロセスはマーケット・プラクティスに合致していると考えます。
- レポートニング
 - セイコーエプソンは、グリーンボンドの償還までの期間、調達資金の充当状況及び環境改善効果について、同社ウェブサイト上で年次で、又は重要な事象があった際には必要に応じて、報告する予定です。資金の充当状況レポートニングは、充当プロジェクトの概要、充当額及び未充当資金の額、ファイナンス・リファイナンスの割合を含みます。インパクトレポートニングは、製造された完成品（部品の場合は取り付けられた完成品）の環境性能及び、出荷台数に基づき算定される CO₂ 削減量、再生可能エネルギーの購入量及び CO₂ 削減効果、研究結果論文数といった指標を開示します。
 - 同社は、独立した外部機関であるサステナリティクスから、上記の調達資金の使途及び環境改善効果に関するレポートニングについて、本フレームワークとの整合性を確認するコンプライアンス・レビューを年次で取得することを約束しています。サステナリティクスは、充当状況レポートニング及びインパクトレポートニングの実施年次報告に加え、独立した外部機関によるコンプライアンス・レビューの取得に対するコミットメントは、マーケット・ベスト・プラクティスに合致していると考えます。

グリーンボンド原則 2018 への適合性

サステナリティクスは、セイコーエプソンのグリーンボンドフレームワークが GBP の 4 つの要件に適合していると判断しました。詳細については、グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム外部機関レビューフォーム（参考資料 2）をご覧ください。

日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版への適合性

日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版は信頼性の高いグリーンボンドの発行のために発行体が厳守すべき事項及び推奨事項を示しています。サステナリティクスは、セイコーエプソンのグリーンボンドフレームワークと日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版において「べきである」と表記されている事項との適合性を評価しました。

ICMA グリーンボンド原則（GBP）と日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版 ²	GBP 及び日本のグリーンボンドガイドラインとの適合性	日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版との適合性についてのサステナリティクスのコメント ³
1. 調達資金の使途	適合	セイコーエプソンが本フレームワークにおいて資金使途の対象として定める、高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス、汚染防止及び抑制、持続可能な水資源及び廃水管理、再生可能エネルギーの領域における適格プロジェクトは、日本のグリーンボンドガイドラインにおいて明確な環境改善効果を有する事業として示されているものです。また同社は、適格プロジェクトに付随する環境面のリスクの低減措置についても本フレームワーク内で説明

² 環境省、「グリーンボンドガイドライン 2017 年版」：http://greenbondplatform.env.go.jp/pdf/greenbond_guideline2017.pdf

³ ICMA GBP との適合性の詳細については、参考資料 2 をご参照ください。

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

		しており、投資家は事前に関覧することができます。
2. プロジェクトの評価及び選定プロセス	適合	セイコーエプソンは、本フレームワークにおいて、グリーンボンドの発行を通じて実現を目指す長期ビジョンの「環境ビジョン 2050」について説明しています。また、グリーンボンドの資金使途の適格クライテリアのほか、最高財務責任者を最終決定者とするプロジェクトの評価・選定プロセスについても本フレームワークに明記しています。
3. 調達資金の管理	適合	充当額及び未充当資金の金額は、同社の経営・財務管理部が四半期毎に、社内システムを用いて追跡管理します。未充当資金は、現金又は現金等価物にて管理されます。上記の調達資金の管理方法については、本フレームワーク内で説明されています。
4. レポーティング	適合	セイコーエプソンは、グリーンボンドの償還までの期間、調達資金の充当状況及び環境改善効果について、同社ウェブサイト上で年次で報告を行う予定です。また、大きな状況の変化があった場合には、必要に応じて開示を行います。環境改善効果の報告においては、製造された完成品（部品の場合は取り付けられた完成品）の環境性能及び、出荷台数に基づき算定される CO2 削減量、再生可能エネルギーの購入量及び CO2 削減効果、研究結果論文数を指標として開示予定です。

セクション 2: 発行体のサステナビリティ戦略

フレームワークによるセイコーエプソンのサステナビリティ戦略への貢献

セイコーエプソンは、経営理念⁴の下、「なくてはならない会社」になることを目指し、長期ビジョンの「環境ビジョン 2050」⁵において持続可能な社会の実現に向けて貢献することを掲げています。事業活動を通じて社会課題の解決に取り組むため、6 つのマテリアリティを特定しています。その一つとして「循環型経済の牽引」を掲げ、「製品・サービスを通じた環境貢献」、「エネルギー・資源の有効活用」、「気候変動・地球温暖化防止」を CSR 重要テーマとして認識しています。⁶同社は、上記 CSR 重要テーマについて、下記の目標を掲げ、取り組みを行っています。

高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス

セイコーエプソンは CSR 重要テーマ「製品・サービスを通じた環境貢献」への取り組みとして、事業利益当たりのスコープ 3（カテゴリー 1（購入した物品・サービス）並びにカテゴリー 11（販売した製品の使用））の GHG 排出量を 2025 年度までに 44%削減する目標を設定し、Science Based Targets initiative (SBTi)

⁴ セイコーエプソン、「経営理念」：<https://www.epson.jp/company/philosophy.htm>

⁵ セイコーエプソン、「環境ビジョン 2050」：<https://www.epson.jp/SR/environment/vision/>

⁶ セイコーエプソン、「CSR 重要テーマ実行項目」：https://www.epson.jp/SR/initiative/action_item.htm

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

の承認を受けています。⁷ 同社ではこの目標を達成するために、「環境配慮設計」の仕組みを導入し、高い省エネルギー性を持った商品の開発を進めています。また、同社は、「環境配慮設計」の仕組みの一環として、省資源性を重視し、製品の使用時における資源消費の低減や廃棄物を最小化することで環境負荷の低減を目指しています。

汚染防止及び抑制

セイコーエプソンは、事業活動から発生する排出物の削減と再資源化（ゼロエミッション）を進めています。生産活動やオフィスから発生する全ての排出物は拠点内での減量化や再利用、リサイクル等を実施した上で、処理業者へ委託して再資源化しています。また、工場排水のリサイクル率向上や水質規制強化への対応などにも積極的に取り組んでいます。

持続可能な水資源及び廃水管理

セイコーエプソンは、事業活動においては多くの水資源に依存しており、水資源は事業活動に大きな影響を与えると認識しています。この認識のもと、同社では生産工程において、必要以上に水を汚さず、消費せず、使った水はリサイクルして使うことを基本方針として水資源の保全に取り組んでいます。また同社では、世界資源研究所（WRI）及び世界自然保護基金（WWF）の評価ツールを用いて生産拠点の水リスク評価を行うことで、水リスクの高い拠点を特定し、重点的に水資源の保全活動を行っています。⁸

再生可能エネルギー

セイコーエプソンは事業活動に伴う GHG 排出量（スコープ 1、2）を 2025 年度までに 2017 年度比で 19% 削減する目標を設定し、SBTi の承認を受けています。⁹ 同目標の達成に向けて、事業拠点での再生可能エネルギーの導入を進めています。2018 年度は、水力発電をはじめとした再生可能エネルギーの長期調達契約や海外拠点のオンサイト発電により、大幅に再生可能エネルギー利用率を高めています（2017 年度 0.8%、2018 年度 11.6%）。

上記を考慮し、サステナリティクスは同社がグリーンボンドを発行するにあたって十分な体制を有するとの見解を表明します。また、本フレームワークで定められた資金使途は同社の環境面の目標、方針、取組みの実現に貢献するとの意見を表明します。

プロジェクトに伴う環境及び社会的リスクに対処する十分な体制整備

サステナリティクスは、セイコーエプソンが資金使途として定めるグリーンプロジェクトは、環境改善効果を生み出す一方で、環境及び社会面で潜在的なリスクを伴うことを認識しています。想定されるリスクは、工場の建設や運営に伴う騒音・振動、土壌・水質汚染、生態系及び労働者の安全衛生への悪影響が挙げられます。また、廃棄物のリサイクルに関連するプログラムや製品の製造においては、ライフサイクル全体での環境負荷の増大、有害化学物質の不適正処理による環境汚染及び人体被害が想定されます。同社は、以下の方針、プロセスによりリスク低減に取り組んでいます。

- 同社は環境面でのリスクマネジメントのため、国際標準規格の ISO14001 を活用した環境マネジメントシステムを運用し、環境基準値の逸脱など、環境面で想定されるリスクを特定・評価しています。また、環境汚染防止に関するグループ統一基準を設定して法令遵守に取り組んでいます。化学物質の管理にあたっては、データ管理システムを用いて全社の情報をグローバルに一元管理し、化学物質の使用量の削減や PRTR（化学物質排出移動量届出制度）対象物質¹⁰及び VOC（揮発性有機化合物）の排出量削減に向けた施策を継続的に実施しています。¹¹ サプライヤーによる製品含有化学物質規制の遵守を担保するため、「エプソングループ生産材グリーン購入基準書」¹²への遵守を依頼しています。

⁷ セイコーエプソン、「エプソンの温室効果ガス削減目標が「Science Based Targets（SBT）イニシアチブ」の承認を取得」：
https://www.epson.jp/osirase/2018/181130_2.htm

⁸ セイコーエプソン、「水資源の保全」：<https://www.epson.jp/SR/environment/resources/water.htm>

⁹ セイコーエプソン、「エプソンの温室効果ガス削減目標が「Science Based Targets（SBT）イニシアチブ」の承認を取得」：
https://www.epson.jp/osirase/2018/181130_2.htm

¹⁰ 経済産業省、「PPTR 制度」：https://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/law/prtr/index.html

¹¹ セイコーエプソン、「生産」：<https://www.epson.jp/SR/environment/pollution/production.htm>

¹² セイコーエプソン、「グリーン購入のお願い」：https://www.epson.jp/SR/supply_chain_csr/green_purchasing/

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

- 同社は労働安全衛生マネジメントシステム OSHMS に基づき、独自のプログラム「NESP（New Epson Safety & Health Program）基本方針」¹³を制定し、危険性及び有害性に関するリスクアセスメントを実施し、PDCA サイクルによって安全衛生環境の継続的改善に取り組んでいます。
- 同社は、マテリアリティの一つに「サプライチェーンマネジメントの強化」を位置付け、独自のサプライヤー管理プログラムの運用により、リスクや安全管理等の各種定期評価や改善支援を実施し、リスク低減に取り組んでいます。¹⁴また、レスポンシブル・ビジネス・アライアンス（RBA）に準拠し、労働・環境・倫理・安全衛生に係る要求項目を含む「エプソングループ調達ガイドライン」¹⁵を制定し、サプライヤーへの遵守を要請しています。鉱物の調達に関しては、Responsible Minerals Initiative (RMI) の加盟企業として、RMI が提供する調査ツールを用いてサプライチェーンの調査をしています。¹⁶2020 年までに、「重要サプライヤーのリスクランクをミドルリスク以上とする」、「RMI の CFS 認証プログラムで認証された精錬業者のみからの鉱物調達を実現する」を目標に設定しています。

以上を踏まえ、サステナリティクスは同社がグリーンプロジェクトに係る環境・社会面でのリスクの管理・低減に向けて、十分な体制を有するとの見解を表明します。

セクション 3：調達資金の使途による影響

セイコーエプソンのグリーンボンドフレームワークで定められている資金使途の 4 つのカテゴリーは、GBP 及び日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版によって、環境改善効果をもたらすプロジェクトとして認められています。サステナリティクスは、セイコーエプソンに関連する以下 2 つの資金使途による環境改善効果について説明します。

プリンター・複合機のエネルギー効率の改善の重要性

国際エネルギー機関（IEA）の調査によると、エネルギー効率の改善は、2030 年に向けた世界の温室効果ガス削減に対し、施策ベースで最多の約 48% の貢献を果たすことが見込まれています。¹⁷日本は約束草案において 2030 年度までに 2013 年度比で温室効果ガス排出の 26% 削減を約束しており、その達成に向けて、同期間中に最終エネルギー消費量を原油換算で約 5,030 万 kl の削減を目標として掲げています（エネルギー消費効率の 35% 改善に相当）。¹⁸日本では電力消費機器の省エネルギー推進を目的に、トップランナー制度¹⁹を導入し、対象機器別に期限付きの目標基準値を定めています。プリンター及び複合機は 2013 年に対象機器に追加され、業界全体でエネルギー消費効率が改善されてきました。²⁰一方で、オフィス機器・照明のエネルギー消費量は増加傾向にあり、²¹プリンター・複合機などの印刷機器はオフィスの電力消費の約 10% を占めることから、²²当該機器についてはさらなるエネルギー消費の削減が求められます。

セイコーエプソンは、他社同型製品比較でエネルギー効率をもたらすプリンター・複合機の製造及び研究開発に係る費用への資金充当を予定しています。同社が使用するインクジェット方式は、レーザー方式に比べ、トナーを紙に定着させる工程における熱処理が不要なことにより、印刷時の消費電力を抑えた印刷方式であり、同社はビジネス向けのインクジェットプリンターによる 2018 年度の環境負荷削減効果は 8,909t-CO2e

¹³ セイコーエプソン、「NESP 基本方針」：https://www.epson.jp/company/epson_way/principle/nesp_policy.htm

¹⁴ セイコーエプソン、「CSR 調達の取り組み」：https://www.epson.jp/SR/supply_chain_csr/approach/

¹⁵ セイコーエプソン、「調達ガイドライン」：https://www.epson.jp/SR/supply_chain_csr/guideline/

¹⁶ セイコーエプソン、「責任ある鉱物調達」：https://www.epson.jp/SR/supply_chain_csr/conflict_minerals/

¹⁷ 国際エネルギー機関、「エネルギー効率を通じた気候変動目標の達成（英文）」：<https://www.iea.org/publications/freepublications/publication/MeetingClimateChangeGoalsEnergyEfficiencyInsightsBrief.pdf>

¹⁸ UNFCCC、「日本の約束草案 (INDC)（英語）」：https://www4.unfccc.int/sites/ndcstaging/PublishedDocuments/Japan%20First/20150717_Japan's%20INDC.pdf

¹⁹ 資源エネルギー庁、「トップランナー制度～世界最高の省エネルギー機器等の創出に向けて」：https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/data/toprunner2015j.pdf

²⁰ プリンター・複合機部会、「省エネ基準の動向」：<https://mfd.jbmia.or.jp/energy/efforts/trend.html>

²¹ 資源エネルギー庁、「国際エネルギースタープログラム」：https://www.energystar.go.jp/pamph/pdf/energy_star_pamphlet_2016.pdf

²² セイコーエプソン、「SDGs 達成を加速する、インクジェットイノベーション」：<https://www.epson.jp/products/bizprinter/smartcharge/sdgs/>

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

と推計しています。²³サステナリティクスはセイコーエプソンによる同資金使途は、家庭、オフィス、商業・産業分野でのプリンター・複合機の使用によるエネルギー消費の削減を通じて GHG の排出を削減し、気候変動対策に寄与するものと考えます。

リサイクルおよび再利用による資源の効率的利用による環境改善効果

プリンターやパソコンを含む廃電気電子機器（E-waste）は世界で増加傾向にあり、2016 年の 44.7 百万トンから、2021 年にはさらに 52.2 百万トンまで増加することが予測されています。E-waste のうち、2016 年に回収・リサイクルされたのは 20%にとどまり、残りは焼却及び埋め立て処分されました。²⁴インクカートリッジをはじめとする消耗品については、リサイクル率は約 30%となります。²⁵E-waste や消耗品は、金属類やレアメタル、プラスチック等の資源を含むため、適切に処理されない場合、大気・水質・土壌汚染による環境・健康被害の原因となるほか、再資源化による資源の有効活用が求められます。古紙については、再利用率の世界計は約 60%、日本は約 65%となります。²⁶古紙の利用は、廃棄物の削減のみならず、森林資源の持続可能な利用、新たな紙の製造に要する水やエネルギー消費の削減につながることから利用率のさらなる向上が目指されています。

セイコーエプソンは、世界各国・地域で使用済みの同社製のプリンター、プロジェクター、パソコン等の完成品及びカートリッジを中心とした同社製の消耗品の回収・再資源化プログラムを展開し、2018 年度に使用済み製品を累計 220 千 t、カートリッジは累計 52 千 t 回収した実績を持ちます。また、同社は使用済み用紙から新たな紙をその場で再生産できる乾式オフィス製紙機の製造・研究開発をしており、同製品の導入先における古紙の利用促進に貢献しています。

以上を踏まえサステナリティクスは、同社の製品・消耗品の回収・リサイクルプログラム及び乾式オフィス製紙機の製造・研究開発は、資源の効率的利用、廃棄物の削減、環境・健康被害の防止に貢献することで、明確な環境改善効果を創出するものとの見解を示します。

「持続可能な開発目標（SDGs）」への貢献

「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals（SDGs）」は 2015 年 9 月に策定され、持続可能な開発を実現するための 2030 年までの目標が設定されました。セイコーエプソンのグリーンボンドは以下の SDGs 目標を推進するものです。

資金使途のカテゴリー	SDG	SDG 目標
高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス	9. 産業、イノベーション、インフラストラクチャー	9.4 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じてインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
汚染防止及び抑制	12. 持続可能な生産消費形態を確保する	12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
持続可能な水資源及び廃水管理	6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	6.3 2030 年までに、汚染の減少、投棄廃絶と有害な化学物質や物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模での大幅な増加により、水質を改善する。

²³ 第三者の GHG 排出回避量を推定：レーザープリンターをインクジェットプリンターへ置き換えることによる削減貢献量を、電力使用量から算出（フローベース）。実際の削減量とは異なります。

²⁴ Baldé, C.P., Forti V., Gray, V., Kuehr, R., Stegmann, P.: The Global E-waste Monitor – 2017, United Nations University (UNU), International Telecommunication Union (ITU) & International Solid Waste Association

(ISWA), Bonn/Geneva/Vienna. : <https://www.itu.int/en/ITU-D/Climate-Change/Documents/GEM%202017/Global-E-waste%20Monitor%202017%20.pdf>

²⁵ energycentral「インクの廃棄：プリンターカートリッジの環境負荷」： <https://www.energycentral.com/c/ec/ink-waste-environmental-impact-printer-cartridges>

²⁶ 日本製紙連合会、「紙のリサイクルに対する考え方 古紙利用の重要性」： <https://www.jpa.gr.jp/env/recycle/used-paper/index.html>

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

再生可能エネルギー	7. 安価でクリーンなエネルギー	7.2 2030 年までに、世界全体のエネルギー構成において再生可能エネルギーの比率を大幅に高める。
-----------	------------------	--

結論

セイコーエプソンは、本フレームワークに基づいてグリーンボンドを発行し、調達資金を 1) 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス、2) 汚染防止及び抑制、3) 持続可能な水資源及び廃水管理、4) 再生可能エネルギーという 4 つの適格カテゴリーにおける適格グリーンプロジェクトへのファイナンス又はリファイナンスに充当する予定です。同社は、長期ビジョンの「環境ビジョン 2050」及び中間目標の「Epson 25」を通じて、持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを掲げています。サステナリティクスは同社が本フレームワークで説明する資金使途は、同社のサステナビリティ目標の達成に貢献するほか、SDGs の目標 6、7、9 及び 12 の推進に寄与するものと考えます。

セイコーエプソンの資金使途は、GBP 及び日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版において、明確な環境改善効果を有するプロジェクトカテゴリーに該当します。同社がフレームワークで定めるプロジェクトの評価・選定、調達資金の管理に関するプロセスは、マーケット・プラクティスに合致し、資金充当状況及び環境改善効果に関する年次報告及びコンプライアンス・レビューの取得はマーケット・ベスト・プラクティスに合致しています。

サステナリティクスは上記を総合的に検討し、セイコーエプソンのフレームワークは GBP の 4 つの要件及び日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版と合致し、信頼性と透明性が高いものであるとの意見を表明します。

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

参考資料

参考資料 1：フレームワークの概要

グリーンボンドの発行を目的として、セイコーエプソンは 2019 年 11 月に GBP が定める 4 つの要件（調達資金の使途、プロジェクトの評価及び選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティング）に適合するフレームワークを以下の通り策定しました。フレームワークは同社に帰属します。

1. 調達資金の使途

グリーンボンドの発行によって調達した資金を、以下の適格クライテリアを満たす新規及び既存の支出に充当します。既存の支出に関しては、グリーンボンドの発行日から遡って過去 3 年以内に実行された支出に充当します。

適格カテゴリー1ー高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス

調達資金の使途：

他社製品比較で大幅なエネルギー効率（オフィス向け高速ラインインクジェット複合機は他社製品比較で消費電力が約 1/8、商業・産業向け捺染プリンターはアナログ捺染の生産工程が 1.5 カ月から 2 カ月に対して、3 日から 2 週間に短縮、大容量インクタンクプリンターは他社製品比較で消費電力が約 1/10、）をもたらす複合機・プリンターの製造及び/又は研究開発に関する下記の費用。

- インクジェットプリンターの中核部品の製造及び研究開発を行う広丘事業所（9 号館）の新棟新設費用〈リファイナンス〉
- 商業・産業用大型印刷機及びデジタル捺染の製造及び研究開発を行う広丘事業所（イノベーションセンターB 棟）の新棟新設費用〈新規/リファイナンス〉
- インクジェットプリンターの製造を行うフィリピン製造子会社の工場増設費用〈リファイナンス〉
- オフィス向け高速ラインインクジェット複合機の生産設備及び研究開発費用〈新規/リファイナンス〉
- 商業・産業プリンターの生産設備及び研究開発費用〈新規/リファイナンス〉
- インクジェットプリンター及び中核部品「インクジェットヘッド」の生産設備及び研究開発費用〈新規/リファイナンス〉

水を使わずに新たな紙を生産する紙再生技術 PaperLab 及びドライファイバーテクノロジーの製造及び研究開発に関する費用（新規/リファイナンス）。

適格カテゴリー2ー汚染防止及び抑制

調達資金の使途：

- グローバルで展開する使用済みの印刷機本体及びカートリッジの回収・リサイクルシステム（インクカートリッジ、本体）の運営費用〈新規/リファイナンス〉

適格カテゴリー3ー持続可能な水資源及び廃水管理

調達資金の使途：

プリンターやインクなどの生産工程における汚染水削減、排水利用による水質保全、水源管理に係る下記の費用。

- 水処理システムの導入・維持費用〈新規/リファイナンス〉

適格カテゴリー4ー再生可能エネルギー

調達資金の使途：

2025 年までに温室効果ガス（GHG）排出量を 19%削減するという目標に向けて推進する、事業拠点における再生可能エネルギーの導入拡大に関する下記費用。

- 再生可能エネルギー由来の電力の購入費用〈新規/リファイナンス〉

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

2.1 プロジェクトの選定における適格クライテリアの適用

調達資金の使途となるプロジェクトは、CS 品質・環境企画部門、CSR/CSV 推進部門と協議を行いながら、適格クライテリアに沿って経営・財務管理部が選定し、経営戦略会議で審議を行ったうえで、最高財務責任者が最終決定を行います。

3.2 環境目標

当社は、経営理念に基づき「なくてはならない会社」を目指しています。その実現に向けて、企業として取り組むべき課題を明確にし、事業活動を通じて社会課題の解決を図っていくため、当社が重点的に取り組むべき「CSR 重要テーマ」を特定し、「製品・サービスを通じた環境貢献」、「エネルギー・資源の有効活用」及び「気候変動・地球温暖化防止」を含む 19 テーマを選定しました。

また、社会課題を解決し世の中に貢献することで、事業成長を実現していくために、長期的な環境指針となる「環境ビジョン 2050」、2050 年の目標からバックキャストした、2025 年における「ありたい姿」を定めた中間目標「Epson 25」環境ステートメントを策定しております。「環境ビジョン 2050」は、環境ステートメントとして、「革新的な『省・小・精の技術』で、商品・サービスのライフサイクルにわたる環境負荷低減をお客様価値として提供し、持続的な発展をもたらす」ことを定め、当社の商品の環境性能向上や製造・輸送・販売活動等の事業活動において、さらに環境負荷低減を進めることに留まらず、当社が提供する商品・サービスを通じて、お客様に従来とは異なる新たな業務プロセスを提案し、環境負荷を低減しながら、経済発展をして頂くことで、お客様とともに地球環境保全に貢献することを目指しています。「Epson 25」においては、当社の「ありたい姿」を「『省・小・精の価値』で、人やモノと情報が繋がる新しい時代を創造する」とビジョンステートメントで決めました。『省・小・精の技術』は、当社が創業以来培ってきた技術力の源泉であり、当社の DNA ともいえるもので、あらゆる製品で「省」エネルギーを追求し、同じ性能のものをより「小」さく作り、一層の高「精」度を実現していく価値創造のことを指します。

3.3 環境リスク・社会リスクを低減するためのプロセス

事業活動によって環境を汚染した場合、周辺住民の皆様や国・地域に多大な損失や悪影響を及ぼしかねません。当社は、環境汚染防止に関するグループ統一基準を定め、環境リスクマネジメントの考え方や法令遵守を徹底しています。各推進組織では ISO14001 を活用し、基準値の逸脱、環境に関する苦情や事故につながるリスクを洗い出し、評価しています。その結果に基づき対策を講じ、継続的なリスク低減に努めています。

3. 調達資金の管理

調達資金は、経営・財務管理部が四半期毎にオーダーや投資案件に加え、充当額及び未充当資金の金額をシステムで追跡管理いたします。

調達資金の充当が決定されるまでの間は、調達資金は現金または現金等化物にて管理いたします。その旨はフレームワーク、訂正発行登録書等に記載し、開示する予定です。

4. レポーティング

グリーンボンド発行から償還までの期間、手取り金の充当状況及び環境改善効果として当社が定めた内容について、当社ウェブサイト上に、年次で開示することを予定しています。また、大きな状況の変化があった場合には、必要に応じて開示を行います。また、サステナリティクスより資金の充当状況並びに環境改善効果としての開示内容等のレポーティングの状況を主としたグリーンボンド評価のレビューを受ける予定です。

4.1 資金充当状況レポーティング

当社は資金の充当状況に関し、充当プロジェクトの概要、充当額・未充当額、ファイナンス・リファイナンスの割合を開示します。

4.2 インパクトレポーティング

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

環境改善効果として以下のインパクトレポーティングを予定しています。

- 事業所内で製造した製品の環境性能と、出荷台数ベースでの CO2 排出削減量 (t-CO2) (推定値)
- 太陽光発電を含む再生可能エネルギーの購入量 (kWh) と CO2 削減効果 (t-CO2)
- 研究結果論文 等

5. コンプライアンス・レビュー

当社はグリーンボンド発行日から 1 年を経過する前に、適格プロジェクトが同社のグリーンボンドフレームワークに適合しているかを評価するためのレビューを独立した外部機関であるサステイナリティクスから取得致します。このレビューは、当該グリーンボンドが全額充当されるまで毎年行う予定です。

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

参考資料 2：グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム外部機関レビューフォーム

セクション 1. 基本情報

発行体の名称	セイコーエプソン株式会社
グリーンボンド ISIN コード／発行体グリーンボンドフレームワークの名称（該当する場合）	セイコーエプソングリーンボンドフレームワーク
レビュー機関の名称	サステイナリティクス
本フォームの記入完了日	2019 年 12 月 5 日
レビューの発行日: [本レポートが過去のレビューの更新版である場合、その旨を記載し、参照すべき元文書をご記入下さい]	

セクション 2. レビューの概要

レビューの範囲

レビューの範囲では、以下の項目を適宜使用/採用しています。

本レビューでは次の要素を評価し、GBP との整合性を確認しました。

- | | |
|---|--|
| ☒ 調達資金の使途 | ☒ プロジェクトの評価及び選定のプロセス |
| ☒ 調達資金の管理 | ☒ レポーティング |

レビュー機関の役割

- | | |
|---|---------------------------------|
| ☒ コンサルティング（セカンドパーティ・オピニオンを含む） | ☐ 認証 |
| ☐ 検証 | ☐ レーティング |
| ☐ その他（具体的に記入して下さい） | |

注：レビューが複数ある場合やレビュー機関が異なる場合は、レビューごとに別々のフォームを使用して下さい。

レビューの要約及び／又はレビュー全文へのリンク（該当する場合）

上記「評価概要」を参照ください。

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

セクション 3. レビューの詳細

レビュー機関は、以下の情報を可能な限り詳細に提供し、コメントセクションを使用してレビューの範囲を説明することが推奨されています。

1. 調達資金の使途

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

資金使途の対象となる適格カテゴリー、1) 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス、2) 汚染防止及び抑制、3) 持続可能な水資源及び廃水管理、4) 再生可能エネルギーは、GBPにおいて認められているカテゴリーと合致しています。また、サステナリティクスは、セイコーエプソンの適格プロジェクトは、環境改善効果をもたらす、国際連合が定める持続可能な開発目標（SDGs）の目標6、7、9及び12を推進するものと考えます。

資金の使途のカテゴリー（分類は GBP に基づく）

- | | |
|---|---|
| ☒ 再生可能エネルギー | ☐ エネルギー効率 |
| ☒ 汚染の防止と管理 | ☐ 自然資源の持続可能な管理と土地の使用 |
| ☐ 生物多様性保全（陸上及び海洋） | ☐ クリーンな輸送 |
| ☒ 持続可能な水資源管理 | ☐ 気候変動への適応 |
| ☒ 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス | ☐ グリーンビルディング |
| ☐ 発行の時点では確認されていないが、将来的にGBPのカテゴリーに適合するか、又はまだGBPのカテゴリーになっていないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | ☐ その他（具体的に記入して下さい） |

GBPのカテゴリーにない場合は、環境分類を記入して下さい（可能な場合）

2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

セイコーエプソンの資金使途の候補となるプロジェクトは、適格クライテリアに沿って経営・財務管理部、CS品質・環境企画部門及びCSR/CSV推進部門が選定します。選定されたプロジェクトは、経営戦略会議にて審議され、最終決定は最高財務責任者が行います。同社の評価及び選定プロセスはマーケット・プラクティスに合致しています。

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

評価・選定

- | | |
|---|--|
| ☒ 発行体のサステナビリティ目標は、環境改善効果をもたらす | ☒ ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトが適格カテゴリーの範囲に適合していることが判断される |
| ☒ グリーンボンドによる調達資金に適格なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている | ☐ ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトに関連した潜在的ESGリスクを特定及び管理していることが判断される |
| ☐ プロジェクトの評価・選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている | ☐ その他（具体的に記入して下さい） |

責任に関する情報及び説明責任に関する情報

- | | |
|--|----------------------------------|
| ☒ 評価／選定のクライテリアについては外部機関による助言又は検証 | ☐ 組織内での評価 |
| ☐ その他（具体的に記入して下さい） | |

3. 資金管理

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

同社の経営・財務管理部が四半期毎に、社内システムを用いて充当額及び未充当資金の額を追跡管理します。未充当資金は、現金又は現金等価物にて管理されます。サステナビリティクスは、同社の調達資金の管理プロセスはマーケット・プラクティスに合致していると考えます。

調達資金の追跡管理:

- | |
|--|
| ☒ 発行体はグリーンボンドの調達資金を体系的に区別又は追跡管理している |
| ☒ 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている |
| ☐ その他（具体的に記入して下さい） |

その他の情報開示

- | | |
|---|---|
| ☐ 新規の投資にのみ充当 | ☒ 既存と新規の投資に充当 |
| ☐ 個別の支出に充当 | ☐ 支出ポートフォリオに充当 |
| ☐ 未充当資金のポートフォリオを開示 | ☐ その他（具体的に記入して下さい）： |

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

4. レポーティング

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

セイコーエプソンは、グリーンボンドの償還までの期間、年次で同社ウェブサイトにて充当状況レポーティング及びインパクトレポーティングを行う予定です。レポーティングには、充当額及び未充当額充当プロジェクトの概要、ファイナンス・リファイナンスの割合及び充当プロジェクトに関連する環境改善指標が開示されます。また、同社は独立した外部機関であるサステナリティクスからコンプライアンス・レビューを年次で取得する予定です。サステナリティクスは、同社の充当状況レポーティング及びインパクトレポーティングの実施に加え、コンプライアンス・レビューの取得に対するコミットメントは、マーケット・ベスト・プラクティスに合致していると考えます。

資金充当状況レポーティング

- | | |
|-----------------------------------|--|
| ☐ プロジェクト単位 | ☒ プロジェクト・ポートフォリオ単位 |
| ☐ 個々の債券 | ☐ その他（具体的に記入して下さい）： |

報告される情報

- | | |
|---|--|
| ☒ 充当額 | ☐ 投資額全体におけるグリーンボンドによる調達額の割合 |
| ☒ その他（具体的に記入して下さい）充当プロジェクトの概要、ファイナンス・リファイナンスの割合 | |

頻度

- | | |
|--|------------------------------|
| ☒ 毎年 | ☐ 半年毎 |
| ☒ その他（具体的に記入して下さい）大きな状況の変化があった場合 | |

インパクトレポーティング

- | | |
|-----------------------------------|--|
| ☐ プロジェクト単位 | ☒ プロジェクト・ポートフォリオ単位 |
| ☐ 個々の債券 | ☐ その他（具体的に記入して下さい） |

頻度

- | | |
|---|------------------------------|
| ☒ 毎年 | ☐ 半年毎 |
| ☐ その他（具体的に記入して下さい） | |

報告される情報（予想又は事後の報告）

- | | |
|---|--|
| ☐ 温室効果ガスの排出量／削減量 | ☐ 消費エネルギーの削減量 |
| ☐ 水消費量の削減量 | ☒ その他のESG指標（具体的に記入して下さい）：製造された完成品（部品の場合は取り |

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

付けられた完成品）の環境性能及び、出荷台数に基づき算定されるCO2削減量、再生可能エネルギーの購入量及びCO2削減効果、研究結果論文数

開示の方法

- | | |
|--|---|
| ☐ 財務報告書に掲載 | ☐ サステナビリティ・レポートに掲載 |
| ☐ 臨時報告書に掲載 | ☒ その他（具体的に記入して下さい）：
会社ウェブサイト |
| ☐ レポーティングは審査済み（「審査済み」の場合、どの部分が外部審査の対象かを明示して下さい） | |

参考情報へのリンク先の欄で報告書の名称と発行日を明記して下さい（該当する場合）

参考情報へのリンク先（例えば、レビュー機関の審査手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク）

参照可能なその他の外部審査（該当する場合）

提供レビューの種類

- | | |
|--|--------------------------------------|
| ☐ コンサルティング（セカンドパーティ・オピニオンを含む） | ☐ 認証 |
| ☐ 検証／監査 | ☐ レーティング（格付け） |
| ☐ その他（具体的に記入して下さい） | |

レビュー機関

発行日

グリーンボンド原則（GBP）が定義する外部レビュー機関の役割について

- i. セカンドパーティ・オピニオン：発行体とは独立した環境面での専門性を有する機関がセカンドパーティ・オピニオンを発行することができる。その機関は発行体のグリーンボンド・フレームワークにかかるアドバイザーとは独立しているべきであり、さもなければセカンドパーティ・オピニオンの独立性を確保するために情報隔壁のような適切な手続きがその機関のなかで実施されるものとする。セカンドパーティ・オピニオンは通常、GBP との適合性の査定を伴う。特に、発行体の包括的な目的、戦略、環境面での持続可能性に関連する理念及び／又はプロセス、かつ資金使途として予定されるプロジェクトの環境面での特徴に対する評価を含み得る。
- ii. 検証：発行体は、典型的にはビジネスプロセス及び／又は環境基準に関連する一定のクライテリアに照らした独立した検証を取得することができる。検証は、発行体が作成した内部又は外部基準や要求との適合性に焦点を当てることができる。原資産の環境面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することもできる。発行体の資金使途の内部的な追跡手法、グリーンボンドによる調達

セイコーエプソン株式会社グリーンボンドフレームワーク

資金の配分、環境面での影響評価に関する言及又はレポーティングの GBP との適合性の保証もしくは証明を検証と称することもできる。

- iii. 認証：発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンドフレームワーク、又は調達資金の用途について、一般的に認知された外部のグリーン基準もしくは分類表示への適合性に係る認証を受けることができる。基準もしくは分類表示は特定のクライテリアを定義したもので、この基準に適合しているかは通常、認証クライテリアとの適合性を検証する資格を有し、認定された第三者機関が確認する。
- iv. グリーンボンドスコアリング／格付け：発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンドフレームワーク又は資金用途のような鍵となる要素について、専門的な調査機関や格付機関などの資格を有する第三者機関の、確立されたスコアリング／格付手法を拠り所とする評価又は査定を受けることができる。そのアウトプットは環境面での実績データ、GBP に関連するプロセス又は 2℃気候変動シナリオなどの他のベンチマークに着目する場合がある。グリーンボンドスコアリング／格付けは、たとえ重要な環境面でのリスクを反映していたとしても、信用格付けとは全くの別物である。

免責事項

© Sustainalytics 2019 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に記載された情報の知的財産権は、独占的にサステイナリティクスに帰属します。サステイナリティクスの書面による明示的な同意がない限り、本成果物のいかなる部分も、電子的、機械的、写真複製、録音等の形態・方法を問わず、複製し、流通させ、他の情報と組み合わせ、二次的著作物の作成に使用し、その方法にかかわらず提供し、第三者の閲覧に供し、または公開することはできません。

本書の情報は、現状有姿にて発行体から提供された情報に基づいたものであり、したがってサステイナリティクスは、本成果物に記載された情報の完全性、正確性、適時性について保証するものではなく、誤謬や欠落について何ら責任を負わず、また本成果物の内容や、本成果物およびそこに記載された情報の利用によって生じた損害について、いかなる形の賠償責任も認めることはありません。第三者への言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援または推奨を意味するものではありません。

本成果物に記載されたいかなる内容も、明示または黙示を問わず、企業への投資、プロジェクトの選択、または何らかの種類の商取引の実施の適否に関するサステイナリティクスの表明または保証と解釈されるべきではありません。また（該当する司法管轄区域において定義された）「投資助言」として、または発行体の財務業績、金融債務、もしくは信用力の評価として解釈されるべきではありません。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行、および監視について全責任を負います。

本書は日本語で作成されました。日本語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は日本語版が優先されるものとします。

サステナリティクス

サステナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステナリティクスは世界各地に 13 のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESG に関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30 か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステナリティクスは Climate Bonds Standard Board により検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。サステナリティクスは 2015 年に、Global Capital 社により「最も優れた SRI・グリーンボンドリサーチ・格付企業」に選出され、2018 年と 2019 年には「もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018 年には、Climate Bonds Initiative 及び Environmental Finance 誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定され、2019 年には Climate Bonds Initiative により「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれました。また、サステナリティクスは 2018 年に一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞し、2019 年にはジャパン・グリーンボンド・アワードのジャパン・グリーンコントリビューター部門で環境大臣賞を受賞しております。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照、又は

info@sustainalytics.com にご連絡下さい。

